

学 年	科 目	教科書名	副教材名
中 3	公民的分野	新しい社会 公民 (東京書籍)	公民資料 2022ー (東京法令出版)

1. 授業のねらい

個人の尊厳と人権の尊重の意義を正しく認識して、民主主義に対する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民としての必要な基礎的教養を培う。民主主義の意義、国民生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代社会の生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目して、自ら考えようとする態度を持つ。世界平和の実現と人類の福祉の充実のため、各国が相互に主権を尊重し、各国民の協力が重要であることを認識して、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚する。現代の社会的事象に対する関心を高め、事実を正確にとらえ、公正に判断する能力と態度をもつ。

3学期には社会科の集大成として、全員がSDGsを意識して研究課題を設定し、資料を用いてプレゼンテーションを実施する。授業を聞く力だけでなく、情報を集め、要約し、発表する力を育成する。

2. 授業の進め方

授業は主に講義を聴く。単元別に重要事項を板書し、毎日のニュース・新聞等を資料として、身近な問題に関連させて授業を受ける。毎時間必ずノートを用意し、板書事項をノートに記述すると。また、板書事項を取るだけでなく、授業で配布されたプリントは必ずノートに貼るようにする。

3. 学習上の留意点

政治・経済が我々国民の生活に深く影響を与え、これら政治と経済が相互に関連し合っていることを意識する。単に教科書を通して学ぶだけでなく、リアルタイムで起こるできごととも教材として登場するので、日ごろからニュース・新聞等に触れる機会を積極的につくり、政治・経済の事象についての理解を深める。

また、地理的・歴史的両分野とともに、公民的分野の学習においても、「暗記」ではなく「理解」することを大切にする。そして、分からないことはその時・その場でしっかりと質問する。

4. 副教材・参考文献

- ①『公民資料 2022』（東京法令出版）
- ②『ニュース検定 1・2・準2級』（毎日新聞出版）

5. 評価方法

- ①定期考査5回（100点×5）
- ②平常点…授業中の態度を中心に評価。ノートや課題、発問に対する解答状況等も評価の対象とする。
- ③観点別評価 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

6. 定期考査

- ①授業内容（教科書・資料集・板書項目等）を中心に、時事問題と関連させて出題する予定。
※考査問題に時事問題も出題する予定。
- ②問題の難易度については、毎回の授業に集中して授業をよく聞き、板書事項をノートにきちんと取っていれば理解できる問題である。
- ③ニュース検定冊子からも範囲を決めて出題する。

7. 授業計画

学期	月	単元名・学習項目	評価方法	学習の留意点
一 学 期	四月	【第2章 個人の尊重と日本国憲法】 1節 人権と日本国憲法	提出課題 授業態度 ノート点検	日本国憲法の基本原理（国民主権，平和主義，基本的人権の尊重）について，具体的な生活との関わりを通して理解し，自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づく。
	五月	2節 人権と共生社会	中間考査	個人の尊重や公共の福祉になどについて，多様な手法を使って話し合いや意見交換を行い，多面的・多角的に考察することを通して，より深い人権意識を持つ。
		3節 これからの人権保障		インターネットと人権との関係や人権保障の国際的な広がりなどについて，統計資料や新聞記事などを適切に選択して，現状と課題を読み取らせるとともに，その解決策について多面的・多角的に考える。
		第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治		国民の積極的な政治参加が議会制民主主義を支えていることに気づき，政治に関心を持ち，積極的に関わっていこうとする態度をもつ。
六 月	2節 国の政治のしくみ	提出課題 授業態度 ノート点検	国の政治の課題について，新聞記事やインターネットなどを基に資料を収集し，比較や話し合いを通して，多面的・多角的に考察する。	
	3節 地方自治と私たち			地方自治の機能と役割について学び，自らの生活についての理解を深める。
七 月			期末考査	
二 学 期	九 月	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済	提出課題 授業態度 ノート点検	身近な事例や，シミュレーションなどの活動を通して経済に対する関心を高め，より良い消費生活の在り方や消費者としての自立について考える。
		2節 生産と労働		企業の生産活動や社会的責任について関心を持ち，具体的な事例を意欲的に収集する。
	十月	3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉	中間考査	価格のはたらきに注目し，市場経済を理解する。 身近な社会資本や公共サービスについて調べる中で，政府の経済的な役割に関心を持つ。

二 学 期	十一月	5節 これからの経済と社会 第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み	提出課題 授業態度 ノート点検	公害の防止や環境の保全について、具体的な問題やその解決のための取り組みについて意欲的に追究し、自分にできることを考え、行動する。 主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、それらが果たす役割や意義について考える。
	十二月		期末考査	
三 学 期	一月	2節 さまざまな国際問題		国際法、軍縮、人口問題、地球環境問題、南北問題について考察する。
	二月	3節 これからの地球社会と日本	提出課題 授業態度 ノート点検	SDGsについて理解を深めたうえで、中学で学んだ知識をもとに、各自で研究課題を設定し発表を行う。
	三月		期末考査	

※シラバスの内容(時間や事項)については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。